

令和6年度

# 初任者・2年目・3年目 研修における 自己研修の進め方

～年間の取組と集合研修に向けて～

【ガイドブック】



岩手県立総合教育センター

# 目次

はじめに	1
I 自己研修の考え方	2
II 校内での自己研修の進め方	
1 自己研修の取組過程	3
2 Plan の段階	4
3 Do の段階	7
4 Checkの段階	8
5 Action の段階	11
6 ポートフォリオ	11
III 2年目研修講座「センター研修」における自己研修の研究協議について	12
1 目的	
2 準備するもの	
3 事前提出について	
4 研究協議の方法	
IV 3年目研修講座「センター研修」における自己研修の研究協議について	13
1 目的	
2 準備するもの	
3 事前提出について	
4 研究協議の方法	
V 自己研修の流れ（小学校・中学校）	14
自己研修の流れ（高等学校・特別支援学校）	16
VI 「自己研修計画書」および「自己研修のまとめ」（様式集）	
「自己研修シート」【様式1】	18
「自己研修のテーマ設定シート」「Planシート」記入例（参考）	20
VII 「自己研修計画書」および「自己研修のまとめ」（記入例）	
小学校【記入例①】	22
中学校【記入例②】	24
高等学校【記入例③】	26
特別支援学校【記入例④】	28

## はじめに

このガイドブックは、研修体系の見直しによって平成26年度から新設された、初任者の3年間の研修における自己研修を円滑に進めるために、学校内での支援態勢の充実を目指して発行するものです。

本県に採用となった教員は、1年目に、総合教育センターの初任者研修講座で、配付される「教員のための自己研修の進め方 アクション・リサーチの手法を用いて」のテキストを用いて自己研修についての理論を学びます。2年目には、その理論に基づき、各学校において自己研修を実践し、センター研修において交流することで、自身の取組の視野を広げたり、新たな気づきを得たりして改善のための方策を得ます。その後、各校に戻って自己研修を充実させ、3年目には2年目の経験を踏まえ、交流することで、その進め方を確かなものにします。この3年間の取組によって、生涯に渡って学び続ける教師となるための実践力を身に付けていくことになります。

ここでいう自己研修とは、児童生徒の成長を期し、研修者個人が自己の課題を見付け、課題を解決するために行う主体的な取組のことを指します。その進め方には様々な方法があり、こうでなくてはならないと決まっているものではありません。各研修者は、このガイドブックで説明する進め方を参考にしながら、それぞれの実態に応じて主体的に取り組んでください。

また、自己研修と言っても、その取組は個人で完結できるものではありません。そこには、取組の進捗状況をチェックしたり、各過程において適切なアドバイスをしたりする校内での担当者が必要です。各学校においては、研修者の支援をお願いします。

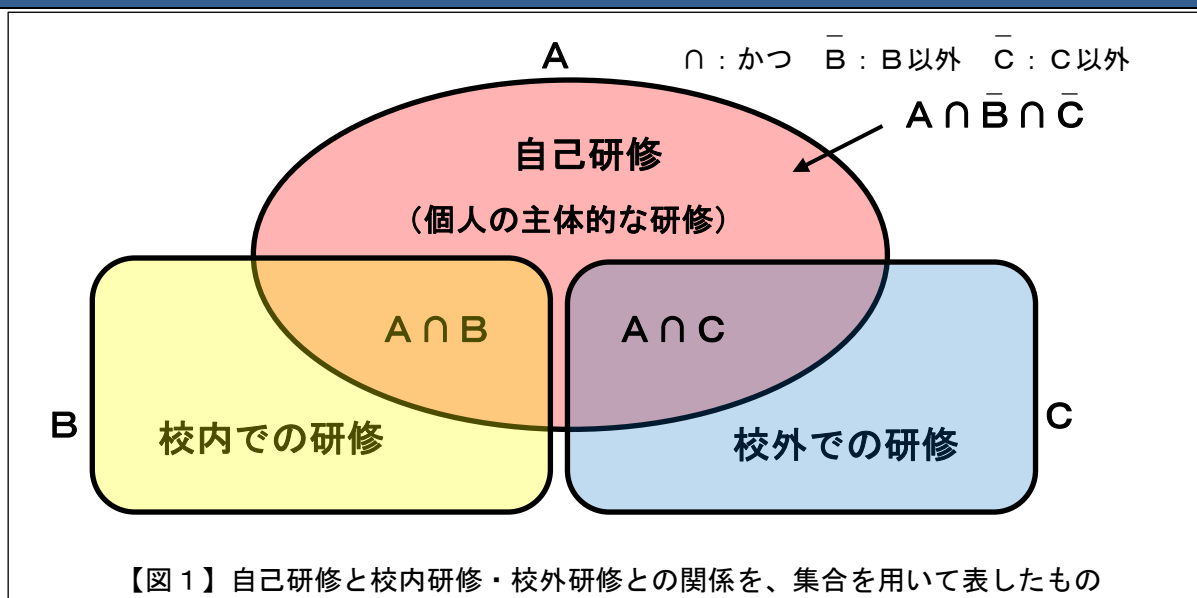
さらに、研修者が自身の取組を振り返って見直したり、自己の成長を確認したりするためには、研修者相互の交流や校内での交流が欠かせません。そこで、研修者相互の研究協議を、2年目および3年目「センター研修」において設定しました。校内での交流については、各校の計画に基づいて適宜行われることに期待します。

自己研修に関わる先生方に、このガイドブックをお読みいただき、円滑で充実した自己研修が実現されることを願っています。

令和6年4月

岩手県立総合教育センター

# I 自己研修の考え方



「初任者・2年目・3年目研修における自己研修の進め方～年間の取組と集合研修に向けて～【ガイドブック】(以下「ガイドブック」とする)では、【図1】に示すように、研修の主催者や場所によって、研修の種類を「校内での研修」と「校外での研修」の2種類に大別しています。そして、主催者や場所に関わらず、個人が自己の課題を意識して意図的に取り組む研修を「自己研修」と定義しています。

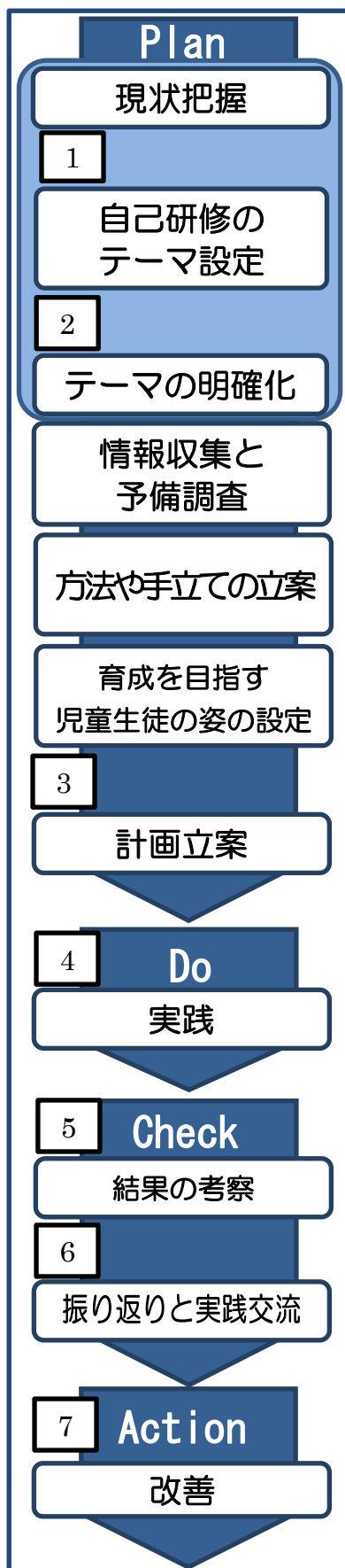
【図1】の具体的な内容は、次の【表1】のとおりですが、2年目・3年目研修における自己研修は、【図1】における $A \cap B$ と $A \cap C$ のことを指しています。

【表1】 「自己研修」、「校内での研修」、「校外での研修」の内容

	内容の解説
A 自己研修	児童生徒の成長を期し、研修者個人が自己の課題を見付け、課題を解決するために行う主体的な取組のすべてを指します。
B 校内での研修	所属校で行う研修のことを指します。 (例 校内授業研究会、授業公開、校内の各種研修会、教科部会、学年会、日常の取組、協議・相談など)
C 校外での研修	所属校以外で行う研修のことを指します。 (例 教育センター研修、教育事務所研修、教育委員会研修、他校の学校公開、校外の各種研修会など)
$A \cap B$ 校内での研修における自己研修	2・3年目研修における実践の場を指します。校内において、児童生徒の成長を期し、研修者個人が自己の課題を見付け、課題を解決するために行う主体的な取組のことです。学校内での(指導)担当者が必要となります。
$A \cap C$ 校外での研修における自己研修	2・3年目研修(センター研修等)における実践交流のことを指します。内容は、校内での研修における自己研修の実践の交流です。
$A \cap B \cap C$ 勤務時間外に行う自己研修	課題を設定したり、交流や発表をしたり、指導や助言を受けたりすることを目的としない研修者自身の自発的な取組のことを指します。 (例 教育書を読む、講演を聴く、教材研究をする、など)

## Ⅱ 校内での自己研修の進め方

### 1 自己研修の取組過程



過程	研修者の取組	校内担当者の取組
1 p. 5 へ	児童生徒の実態や指導の実態等から、研修の領域や分野を決め、自己研修で目指す姿が分かるように設定します。	児童生徒のあるべき姿と実態や、教育実践のずれを感じている部分等から、問題に気付けるようにします。
2 p. 5 へ	児童生徒の現状から、教員(自分)に起因する要素に注目して、取り組むテーマを絞り込みます。	取組内容を決定する際には、過去の研究資料や担当者の経験等から、適切な助言を行います。
3 p. 6 へ	具体的な取組内容、実践期間、実践後の結果の分析及び考察の内容を考えて計画を立案します。	学校の年間計画上、無理のない計画となっているか、力量に合致しているかという視点から助言します。
4 p. 7 へ	計画に基づいて、一定期間内で実践をします。 自己研修では、実践の中で Plan に戻ったり、何度も実践を繰り返したりします。長期間の場合は、実践が1回ということもあります。	実践を研修者任せにせず、参観するようにします。 参観の目的は、助言によって実践を充実させることではなく、研修者自身が自らの実践を客観的に考察ができていないかに留意しながら適切な助言を行うことです。
5 p. 9 へ	実践後には、計画時に考えた「児童生徒のゴール像」にどれだけ近づくことができたかについて、考察を行います。 実践を繰り返す場合には、改善点を次の実践に反映させます。	実践の分析が確かなものとなっているか、分析の対象や、結果の原因や今後の見通しなどについて、適切な助言をします。対話を通して、研修者自らが気付きをもてるようにすることが大切です。
6 p. 9 へ	一実践の成果や課題という視点ではなく、「自分自身に身に付いた力や、更なる成長に向けての課題」という自身を俯瞰する視点で記述します。「テーマ設定について」、「考察について」という2つの観点で記述します。	実践結果ではなく、テーマ、取組内容、計画、実践について、まとめさせます。 校内で、取組を発表する機会を設定する等、フィードバックが得られるように場の設定を行います。
7 p. 10 へ	評価を基に、自己研修を次のステップに進めます。テーマは同じで取組内容を変える場合や、テーマそのものを変える場合も考えられます。	今回の自己研修による成果と課題を明確にした上で、次の取組につなげるようにします。研修意欲を高めることに十分留意します。

## 2 Plan の段階

### (1) 自己研修のテーマ設定から計画立案まで

- ・「教員のための自己研修の進め方」 pp. 12～13 にある「Plan シート」や記入例などを参考にし、Plan を立てます。日頃の問題意識を自己研修につなげることが重要です。
- ・センター研修で提出する自己研修シートの様式は、このガイドブックの pp. 18～19 に掲載しました。「振り返り」や「実践交流」の段階で自己研修について発表したり報告したりする際の資料であることを意識して作成することが大切です。

**自己研修シート【様式1】**

学校名            小学校 学年・内容            氏名           

**1 自己研修のテーマ**

**2 テーマ設定の理由**

現状把握、自己研修のテーマ設定、テーマの明確化の内容をまとめて文章化します。「自己研修のテーマ設定シート」(p.20 参照)「Plan シート」(p.21 参照)を拠り所とします。

**3 手立てと検証の方法**

手立て	検証の方法

情報収集・予備調査を行い、手立てと検証方法を立案します。育成を目指す児童・生徒の姿を明確にして文章化します。

**4 研修のスケジュール**

月日	実践の場	実践内容

計画立案の内容をまとめて文章化します。表形式でもよいです。「Plan シート」(p.21 参照)を拠り所とします。

**5 実践結果**

手立て	実践結果

手立てに対応させて、実践結果を記述します。立案した検証方法に沿って実践を見直し、文章や箇条書きで記述します。

#### ◆学校としての留意事項◆

- ①学校の中で、適切な担当者を決めて取り組む必要があります。
- ②研修者と担当者の取組を、学校として支えていく必要があります。
- ③担当者の負担も考慮し、場合によって、担当者のチームを置く必要があります。
- ④担当者は助言をしすぎないことを、学校として共通理解しておく必要があります。

## (2) 作成上の留意点

### ア 自己研修のテーマ

- ・学習指導や生徒指導、学級経営等を振り返り、指導上の問題点からテーマを設定します。
- ・「児童生徒の現状」や「目指したい児童生徒の姿」だけでなく、「教師(自分)に起因する要素」や「教師として高めたい力量」にも目を向けてテーマを考えます。
- ・『「児童生徒の現状」から見えてきた問題は、「自分自身の指導」のどこに課題があるのか?』という視点でテーマを絞り込みます。

(テーマの設定例)

- 第5学年算数、小数のかけ算における解き方や考え方を伝え合う力を高める指導の在り方
- 他者の多様な考え方に気付かせ、多面的・多角的思考を促す道徳科授業の在り方  
～発問の工夫とICT活用を通して～
- 自らの問いを周囲と協働しながら追究する力を高める教科指導の改善
- 知的障がい学級の実態差に応じた国語科の授業の工夫  
- 個別学習と一斉学習の工夫を通して -

#### ◆担当者の心構え1◆

助言は、研修者の考えを深めるヒントを与えるためのものであり、担当者の考えを押しつけないことが重要です。

#### ◆助言のポイント◆

- ①テーマは、児童生徒の成長につながるものか。
- ②実践をする際に、無理のないテーマか。
- ③実践後に自分で分析及び考察ができるテーマか。

### イ テーマ設定の理由

- ・できるだけ分かりやすく平易な文章で書き表します。
- ・3文程度で表現します。
- ・児童生徒の実態、指導上の課題、実践の見通し等を記述します。

(取組の例) ※テーマ「5年算数、小数のかけ算における解き方や考え方を伝え合う力を高める指導の在り方」

算数の授業を振り返ると、どの子も真剣に問題解決には取り組んでいるものの、正解か、不正解かという視点ばかりにこだわっていたり、早く解くことで満足感を得ていたりして、表面的な理解に留まってしまっている。これは、解き方を表現したり説明したりする指導が不十分であるためだと考えた。そこで今回の研修では、一人一台端末を使って式の意味を説明する資料を作成したり、グループで説明し合う活動を行ったりすることで、解き方や考え方を伝え合う力を高めるための指導について研修を深めたい。

- ・1文目 児童生徒の実態
- ・2文目 指導上の課題
- ・3文目 実践の見通し(実践のゴールを目指して)

#### ◆担当者の心構え2◆

あくまでも、記述例なので、助言の際には、文章構成や内容について、この形にこだわらないように助言します。

#### ◆助言のポイント◆

- ①読む人が一読して分かる文章となっているか。
- ②生徒の実態と、指導の課題が関連してとらえられているか。
- ③実践のゴールが具体的で実現可能なものか。

## ウ 手立てと検証の方法

- ・手立ては、実践可能な最小限に絞ります。
  - ・実践を繰り返す場合には、1回目の実践の考察後に取組を修正する場合も考えられます。その場合、修正が分かるように記録しておくことが大切です。
  - ・「手立ての数だけ考察の項目がある」と考えます。よって、検証の方法も、手立てごとに設定します。
- (取組の例) ※テーマ「5年算数、小数のかけ算における解き方や考え方を伝え合う力を高める指導の在り方」

手立て	検証の方法
<b>ア 「算数ボックス」の活用</b> 学習支援ソフト内に、「算数ボックス」というフォルダを作り、その中に数直線図や数量関係図等の説明素材を入れておき、それを使って式の意味を説明できるようにする。	・学習支援ソフト上で児童が作成した自力解決データの分析。
<b>イ 「学び合い」の時間の設定</b> 自力解決の後に、3人組による「学び合い」の時間を設定し、互いの解き方について説明し合う活動を取り入れる。	・アンケート調査を行い、伝え合う活動への情意面での変容で評価する。
<b>ウ 振り返りによる自覚化</b> 振り返りで「伝え合い」についての記述を蓄積し、成長の自覚化を図る。	・振り返りの記述の分析。

### ◆担当者の心構え3◆

研修者のアイデアを広げるという観点から、必要に応じ、担当者の経験や書籍などを基に具体的に助言します。

### ◆助言のポイント◆

- ①この他に、テーマ達成に向けた取組として考えられることはないか。
- ②取組は、ゴールにつながるものか。
- ③実践できる無理のない内容となっているか。

## エ 研修のスケジュール

- ・実践可能な無理のない計画を立てることが最も重要です。
- ・計画やまとめの時期を考慮しながら、実践の期間を決めます。
- ・計画→実践→分析及び考察のサイクルが1回の場合も考えられますが、サイクルが2回の場合には、1回目から2回目に移る際に、取組の見直しを図ることも考えられます。
- ・1学期中に1回目のサイクルを終えられる計画にすると、2年目、3年目研修の交流に向けてまとめやすくなります。

(記入例) ※テーマ「5年算数、小数のかけ算における解き方や考え方を伝え合う力を高める指導の在り方」

月日	実践の場	実践内容
4/24 (月)	担当者との相談	「自己研修」計画書の完成
5/8 (月)	担当者との相談	実践の進め方の相談
5/29 (月) ~ 6/6 (火)	実践「小数のかけ算」	研究授業を通じた実践 8時間単元
6/23 (金)	担当者との相談	実践の考察
7/4 (火)	担当者との相談	「自己研修」のまとめ

### ◆担当者の心構え4◆

研修者に寄り添い、計画やまとめだけでなく、担当者が実践の様子も見ることができるような計画にします。

### ◆助言のポイント◆

- ①計画から実践までに十分な期間があるか。
- ②1回の実践がよいか、複数回の実践がよいか。
- ③まとめは、発表や報告に向けて適切な時期か。
- ④学校行事等を考慮し、実践が可能か。



### 3 Do の段階

#### (1) 実践計画

ア 授業実践の場合、実践計画の例として、次のようなものが考えられます。

- ・学習指導案を実践計画とする。(研究授業のスタイルでなくてもよい)
- ・授業構想(板書計画、発問内容)等をノートにまとめて、それを使って授業をする。

イ 学級経営(係活動指導、SHR等)や生徒指導の実践の場合、実践計画の例として、次のことが考えられます。

- ・指導計画を作成する。(目的、目標、指導の計画等)
- ・指導資料(プリント等)を基に指導を計画する。

#### ◆担当者の心構え5◆

計画の質を高めることは必要ですが、実践こそが大切であることに留意しましょう。

#### ◆助言のポイント◆

- ①教科等のねらいに照らして計画が確かであるか。
- ②実践可能でシンプルな記述となっているか。

#### (2) 実践

ア 実践記録をとることが大切であり、工夫として次のことが考えられます。

- ・学習指導案等の実践計画に、実際の指導、授業評価、気づきを書き加えて保存します。
- ・映像や音声によって授業等の記録をとります。
- ・板書や児童生徒の様子等を写真によって記録します。
- ・児童生徒が記入したノートや学習シート等のコピーをとります。

イ 結果の分析及び考察を意識した実践とする工夫として、次のことが考えられます。

- ・学級の全体的な観察、特定の個人に絞った継続的な観察、顕著な生徒の観察など、観察の対象を決め、授業等での生徒の観察内容を記録します。
- ・適切な時期に適切な自己評価を行います。

ウ 評価のための実践、記録のための実践とならないように、授業や活動の本来の目的を見失わないように実践することが最も大切なことです。

#### ◆担当者の心構え6◆

できるだけ、研修者の実践の様子を見に行きましょう。実践の段階では、研修者の質問以外の助言を控え、主体性を持たせます。

#### ◆助言のポイント◆〔テーマ設定理由に即して〕

- ①実践記録の対象が適切か。
- ②実践記録のとり方が適切か。
- ③他に記録の方法があるか。

## 4 Checkの段階

### (1) 実践結果のまとめから実践の振り返りまで

- ・実践内容を、「教員のための自己研修の進め方」pp.14～16にある「Do&Checkシート」を参考にまとめます。
- ・実践結果、実践の考察、実践の振り返りについてまとめます。Do&Checkシートを活用しながら簡潔にまとめるとよいでしょう。このときも、自己研修について発表したり報告したりする際の資料であることを意識して作成することが大切です。
- ・センター研修における報告資料（自己研修シート【様式1】）は、A4判2ページを基本とします。

<b>6 実践の考察</b>	
<p>手立ての項立てに沿って、記述することを基本とします。 「Do &amp; Check シート①」「ポートフォリオ」を拠り所とします。</p> <p>次の3点をセットで記述するようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 基になる「根拠」</li><li>(2) 事実の解釈に基づく「理由」</li><li>(3) 理由から導き出される「結論」</li></ul>	
<b>7 実践の振り返り（できたことや、改善すべきことを具体的に記述）</b> (1) テーマ設定について	
<b>(2) 考察について</b>	
<b>8 担当者からのコメント</b>	

太枠の囲みになっているのは、「自分自身に身に付いた力」や「更なる成長に向けての課題」といった自分自身を俯瞰する視点に切り替えて記述することを意識するためです。例えば、下に示すような視点です。

(1) テーマ設定について  
視点の例 自分自身のニーズに合ったテーマ  
テーマを実現するための手立て

(2) 考察について  
視点の例 児童生徒の変容の捉え方

校内の担当者に、自己研修の取組方に関して気付いたことを書いていただきます。

#### ◆学校としての留意事項◆

- ①報告を目的として、まとめを行っていますが、時間を掛け過ぎないように助言します。
- ②担当者からのコメントは、研修者を励ます大きな要素であることに留意します。
- ③可能であれば、コメントは複数の担当者が記入します。

## (2) 作成上の留意点

### ア 実践結果

- ・手立てに対応させて、実践結果を記述します。立案した検証方法に沿って実践を見直し、文章や箇条書きで記述します。
- ・「うまくいったかどうか」という視点だけでなく、「自分の指導をどのように修正したのか」という視点でも記述しておくことで研修が深まります。

(記入例) ※テーマ「5年算数、小数のかけ算における解き方や考え方を伝え合う力を高める指導の在り方」

手立て	実践結果
ア 「算数ボックス」の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの児童が数直線図を使って説明しようとしていた。</li> <li>・式の意味を、複数の方法で説明していた児童がおり、その良さを他の児童にも広げられた。</li> <li>・準備していた素材を使わずに、自分で書いた図で説明する児童もおり、表現の自由度を高めたことが、上位の児童の学習への有効な手立てとなっていた。</li> <li>・説明用の素材を準備しただけでは、自力で解決までたどり着けない児童がいたので、ヒントの矢印を入れたシートも準備するようにした。この手立てにより、自分で考えられるようになった。</li> </ul>
イ 「学び合いの時間」の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は、解けた児童が、解けなかった児童に教える時間になってしまっていたが、ヒントシートを使って解けるようになると、次第に説明し合う時間になってきた。</li> <li>・3人組にしたことで、必ず説明をしなければならない場面にはなっていたが、形式的に説明する活動になってしまった。</li> </ul>
ウ 振り返りによる自覚化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決や学び合いに時間がかかってしまい、振り返りの時間までは、十分に確保できなかった。アとイの手立てに絞って実践を充実させることとした。</li> </ul>

#### ◆担当者の心構え7◆

自分自身の学びにすることが自己研修の最終的な目的です。無自覚な成果を対話によって自覚できるように働きかけます。

#### ◆助言のポイント◆

- ①結果を事実として整理できているか。
- ②実践者が自覚できていない「よさ」はないか？  
(問いかけて、気づきを促す。)

### イ 実践の考察

- ・手立ての項立てに沿って、記述することを基本とします。
- ・「どんな事実(根拠)」を、「どんな理由で(理由)」、「どのように捉えたか(結論)」を記述するようにします。
- ・改善のために、修正しながら進めた場合は、改善した後のことに着目しながら考察を進めます。

#### ◆担当者の心構え8◆

研修者の分析や考察が深まるような助言を心がけ、担当者の考えを押しつけないことに留意します。

#### ◆助言のポイント◆

- ①手立ての項立てに沿って考察を進めているか。
- ②分かった事実(分析)と自分の考え(考察)をきちんと書き分けているか。

## ウ 実践の振り返り

- ・一実践の成果や課題という視点ではなく、「自分自身に身に付いた力」や、「更なる成長に向けての課題」といった自分自身を俯瞰する視点で記述します。
- ・「テーマ設定について」、「考察について」という2つの観点で記述します。
- ・「テーマ設定について」は、「自分自身のニーズに合ったテーマ」、「テーマを実現するための手立て」を視点として、「設定の仕方は適切だったか?」、「今後の研修に生かせることは何か?」等の問いを立てて振り返るとよいでしょう。
- ・「考察について」は、「児童生徒の変容の捉え方」を視点として、「何に着目して、変容を捉えたか?」、「実践の前後で捉え方がどのように変わったか?」等の問いを立てて振り返るとよいでしょう。

### ◆担当者の心構え9◆

研修者が、「実践について」とう視点から、「自分自身について」という視点に切り替えて考えられているかに注目します。

### ◆助言のポイント◆

- ①自分自身の成長や課題を自覚できているか。
- ②担当者自身は、研修者の気付きに対して、どのような良さを感じたか。

## エ 実践交流

- フィードバックを得るために、以下のような方法が考えられます。
  - ・学校内で担当者に報告の場を職員会議や校内研究会の一部等に設定してもらう。
  - ・レポートを回覧し、コメントをもらう。
- 2年目、3年目の「センター研修」では、レポート【様式1】を持ち寄り、自己研修についての発表と協議を行い、「自分自身に身に付いた力や更なる成長に向けての課題」についての気付きを深め合います。

### ◆担当者の心構え10◆

研修内容の成果と課題についてだけでなく、研修者自身の気付きや成長へのフィードバックを行い、成果を価値付けます。

### ◆助言のポイント◆

- ①児童生徒が成長できた点は何か。
- ②研修者が成長できた点は何か。
- ③次の研修に生かせることは何か。
- ④研修者の気付いた課題を解決するための示唆。

## 5 Action の段階

### 次のサイクルへ

評価を経て、次の視点で自己研修の進め方について改善点を明らかにします。

- ・テーマを同じにするべきか、変えるべきか。
- ・取組内容の何をどう変えるか。
- ・実践計画はどのように見直せばよいか。
- ・どのように結果の分析及び考察をすればよいか。
- ・実践の記録をどのようにとればよいか。
- ・分析及び考察の際に注意しなければならないことは何か。
- ・まとめや振り返りはどのように行えばよいか。

#### ◆担当者の心構え 11◆

自己研修の取組全体を振り返り、次の自己研修につなげる意欲を高めるように心がけます。

#### ◆助言のポイント◆

- ①自己研修の取組の中で、困難を感じたことは何か。どうすれば、その困難を克服できるか。
- ②自己研修の取組の中で、よかったことは何か。どうすれば、そのよさを継続できるか。

## 6 ポートフォリオ

自己研修では、研修の足跡を記録として蓄積するポートフォリオの取組が重要です。

- ポートフォリオの取組により期待できること。
  - ・自己研修の足跡を記録として蓄積することができる。
  - ・ポートフォリオを蓄積、整理することで、自分の実践を振り返り、自己の成長や新たな課題が見え、レポートにまとめることができる。
  - ・レポートやポートフォリオを持ち寄り、お互いの教育実践を交流することで自他の成長を確認したり、新たな自己課題やその改善に向けた手立てに気付いたりすることができる。
  - ・新たな自己研修テーマの設定や、その改善に向けた取組がサイクルとなり、自己研修が継続していく。

#### ◆担当者の心構え 12◆

ポートフォリオの蓄積と整理によって、自己の力量が高まることを伝えましょう。

#### ◆助言のポイント◆

- ①時期を設定してポートフォリオを整理し、その時どのような所感をもったか。
- ②継続して取り溜めた資料を時系列に俯瞰し、児童生徒や研修者がどのように変化していったか。

## Ⅲ 2年目研修講座「センター研修」における 自己研修の研究協議について

### 1 目的

自己研修で取り組んだ成果を交流し、アクション・リサーチの視点から自分自身に身に付いた力を俯瞰してみることにより、今後の自己研修についての展望をもつ。

### 2 準備するもの

- (1) 自己研修シート【様式1】をA4片面2枚以内にまとめたもの。  
ただし、特別支援学校2年目研修講座「センター研修I」については実施要項に記載された事項を確認し、準備するものとする。
- (2) 研究協議の際に必要な学習指導案、学習プリント、板書の写真など、配付した方がよいと思われる最低限の資料。
- (3) 自己研修で蓄積、整理したポートフォリオや児童生徒のノート、作品など、研修者が示して見せたいもの。

### 3 事前提出について

- (1) 2年目研修講座「センター研修」実施要項に記載された事項を確認し、提出するものとする。
- (2) 小学校、中学校、義務教育学校の提出は、市町村教育委員会、教育事務所を経由するため、市町村教育委員会が指定する期日、方法で提出するものとする。
- (3) 高等学校、特別支援学校の提出は、2年目研修講座「センター研修」実施要項に記載する期日、方法で提出するものとする。  
なお、提出資料は研修者が起案して校長の決裁を受けることとする。
- (4) 小学校、中学校、義務教育学校の養護教諭及び栄養教諭の提出は、市町村教育委員会、教育事務所を経由するため、市町村教育委員会が指定する期日、方法で提出するものとする。
- (5) 高等学校、特別支援学校の養護教諭及び栄養教諭の提出は、2年目研修講座「センター研修」実施要項に記載する期日、方法で提出するものとする。  
なお、提出資料は研修者が起案して校長の決裁を受けることとする。

### 4 研究協議の方法

2年目研修講座「センター研修」実施要項に記載された方法で研究協議を行う。

研究協議の詳細については、2年目研修講座「センター研修」の実施要項を確認してください。

## Ⅳ 3年目研修講座「センター研修」における 自己研修の研究協議について

### 1 目的

自己研修で取り組んだ成果を交流し、アクション・リサーチの視点から自分自身に身に付いた力を俯瞰してみることにより、今後の自己研修についての展望をもつ。

### 2 準備するもの

- (1) 自己研修シート【様式1】をA4片面2枚以内にまとめたもの。  
ただし、特別支援学校2年目研修講座「センター研修Ⅰ」については実施要項に記載された事項を確認し、準備するものとする。
- (2) 研究協議の際に必要な学習指導案、学習プリント、板書の写真など、配付した方がよいと思われる最低限の資料。
- (3) 自己研修で蓄積、整理したポートフォリオや児童生徒のノート、作品など、研修者が示して見せたいもの。

### 3 事前提出について

- (1) 3年目研修講座「センター研修」実施要項に記載された事項を確認し、提出するものとする。
- (2) 小学校、中学校、義務教育学校の提出は、市町村教育委員会、教育事務所を経由するため、市町村教育委員会が指定する期日、方法で提出するものとする。
- (3) 高等学校、特別支援学校の提出は、3年目研修講座「センター研修」実施要項に記載する期日、方法で提出するものとする。  
なお、提出資料は研修者が起案して校長の決裁を受けることとする。
- (4) 小学校、中学校、義務教育学校の養護教諭及び栄養教諭の提出は、市町村教育委員会、教育事務所を経由するため、市町村教育委員会が指定する期日、方法で提出するものとする。
- (5) 高等学校、特別支援学校の養護教諭及び栄養教諭の提出は、3年目研修講座「センター研修」実施要項に記載する期日、方法で提出するものとする。  
なお、提出資料は研修者が起案して校長の決裁を受けることとする。

### 4 研究協議の方法

3年目研修講座「センター研修」実施要項に記載された方法で研究協議を行う。

研究協議の詳細については、3年目研修講座「センター研修」の実施要項を確認してください。

# V 自己研修の流れ（小学校・中学校（義務教育学校含む））

## 1 1年目

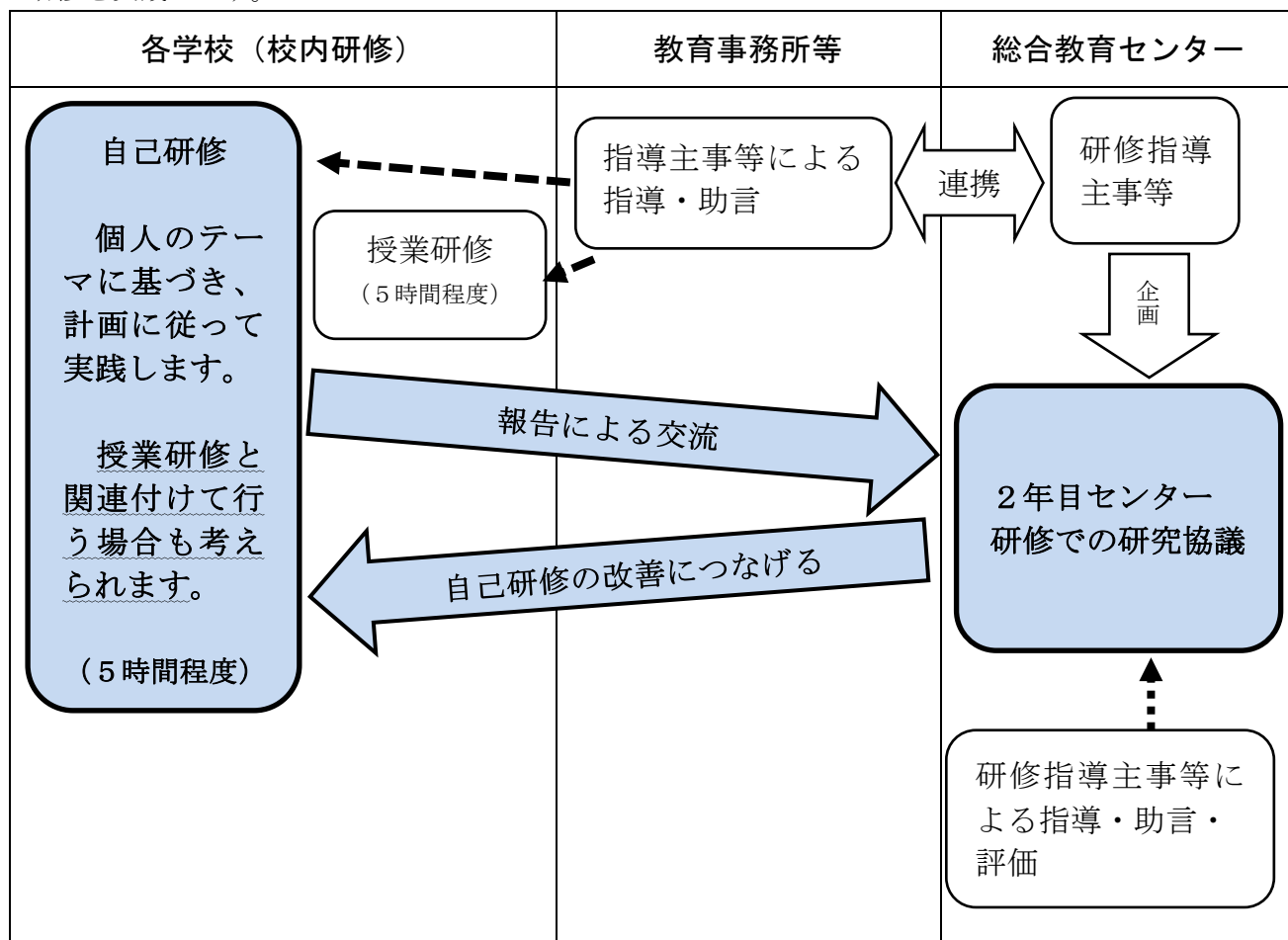
研修者は、総合教育センターで行われる初任者研修講座で、自己研修についての理論と進め方を学びます。初任者研修講座の内容は、以下の通りです。

センター研修Ⅱ	自己研修の意義と進め方を理解する。
センター研修Ⅲ	テーマの設定、解決の見通しの立て方、研修計画の立て方について理解する。

※ 初任研修講座「センター研修Ⅲ」以降、各自計画を立て、2年目研修講座「センター研修」までに【様式1】【様式2】を記述することができるように進めることを連絡。

## 2 2年目

1年目で学んだ理論を基に研修計画を立て、校内の指導担当者や指導主事等の助言を受けながら自己研修を実践します。

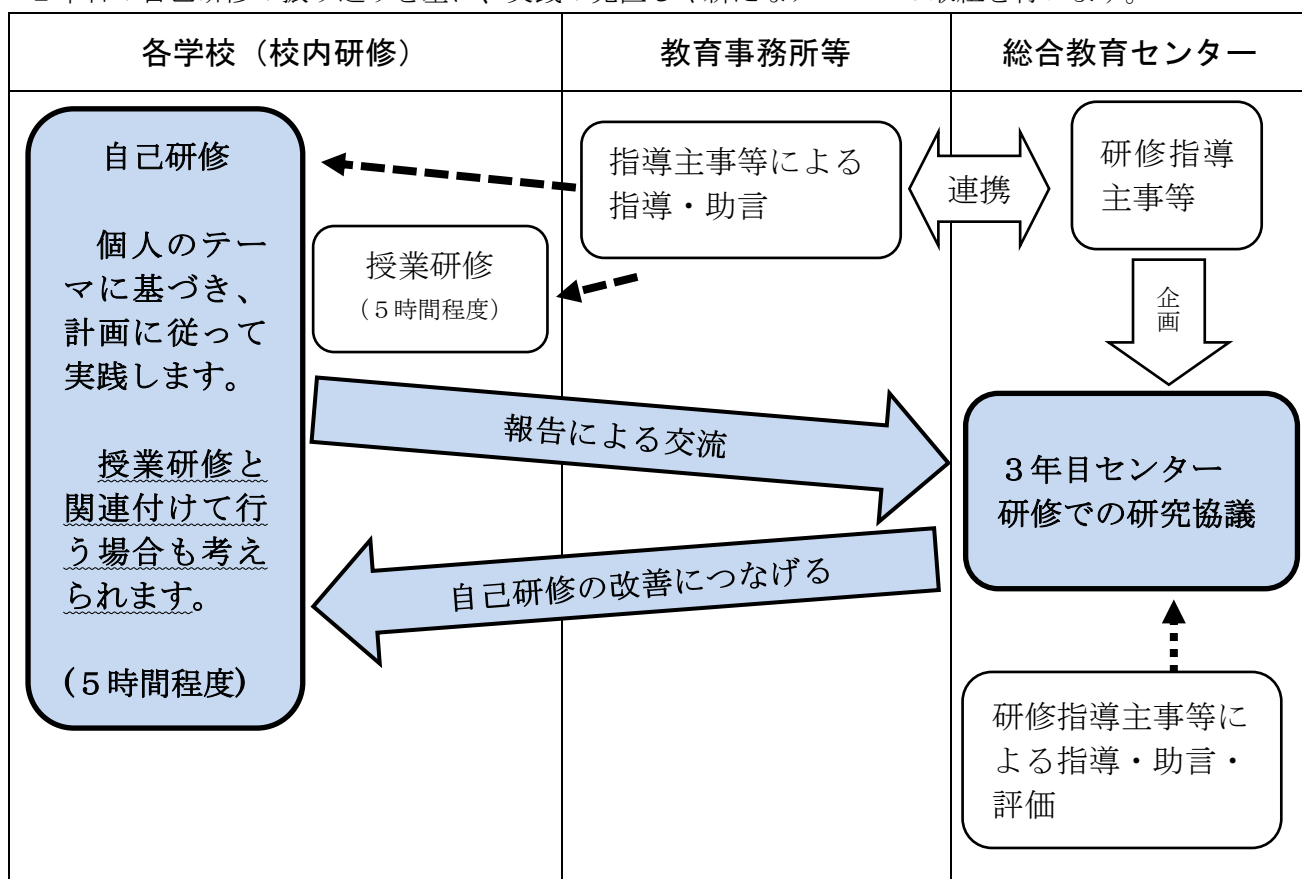


※ 2年目研修講座「センター研修」以降、各自計画を立て、3年目研修講座「センター研修」までに【様式1】【様式2】を記述することができるように進めることを連絡。



### 3 3年目

2年目の自己研修の振り返りを基に、実践の見直しや新たなテーマへの取組を行います。



### 4 4年目以降

教職経験5年研修及び中堅教諭等資質向上研修でも自己研修の取組を行います。  
 研修者は、日常の実践の中で、常に課題意識を持ちながら自己研修を継続します。  
 自己研修について、後輩教員への指導も積極的に行います。

## V 自己研修の流れ（高等学校・特別支援学校）

### 1 1年目

研修者は、総合教育センターで行われる初任者研修講座で、自己研修についての理論と進め方を学びます。初任者研修講座の内容は、以下の通りです。

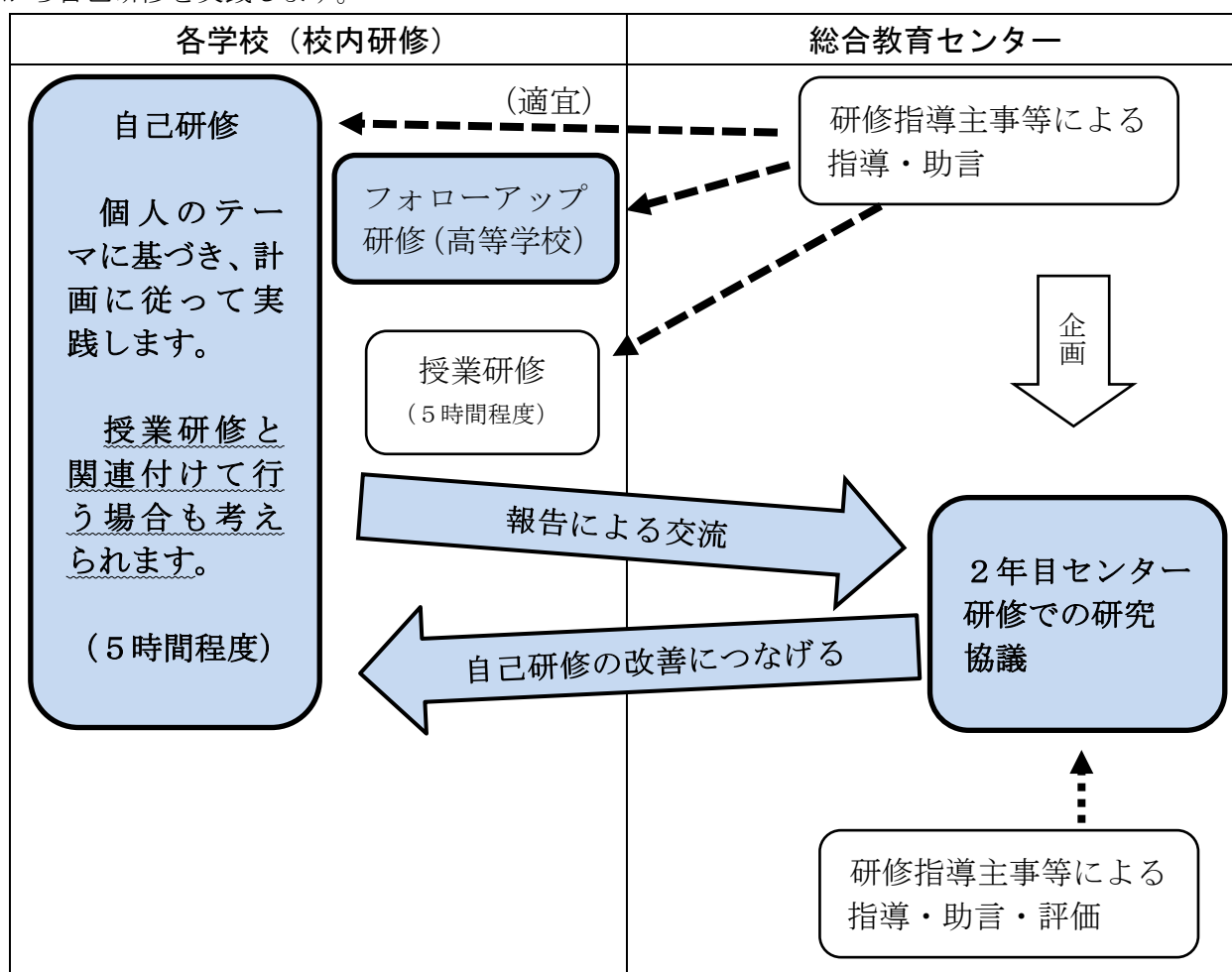
センター研修Ⅲ（高等学校）	自己研修の意義と進め方を理解する。
センター研修Ⅳ（特別支援学校）	テーマの設定、解決の見通しの立て方、研修計画の立て方について理解する。

※ 高等学校の場合、初任者研修講座「センター研修Ⅲ」以降、各自計画を立て、2年目研修講座「センター研修」までに【様式1】【様式2】を記述することができるように進めることを連絡。

※ 特別支援学校の場合、初任者研修講座「センター研修Ⅳ」以降、各自計画を立て、2年目研修講座「センター研修Ⅰ」までに【様式1】を、2年目研修講座「センター研修Ⅱ」までに【様式2】を記述することができるように進めることを連絡。

### 2 2年目

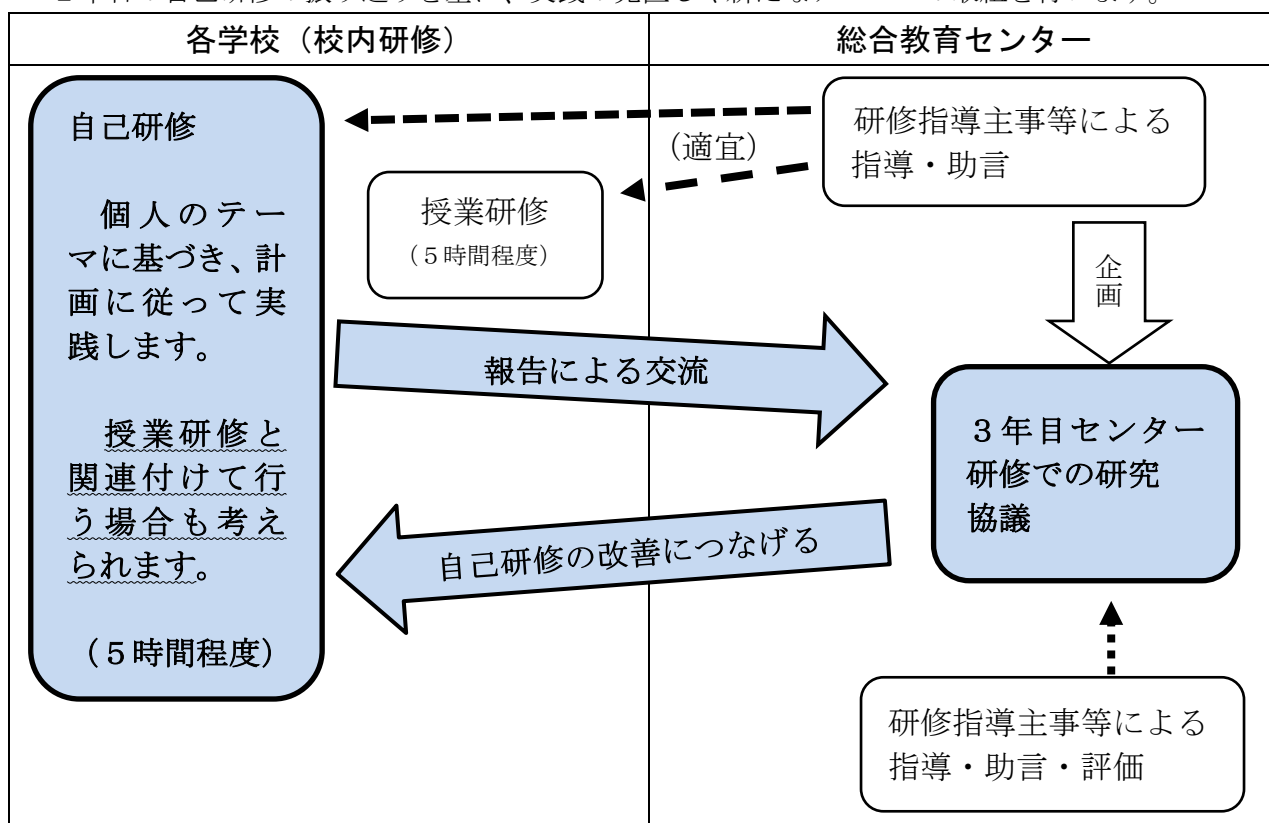
1年目で学んだ理論を基に研修計画を立て、校内の指導担当者や研修指導主事等の助言を受けながら自己研修を実践します。



※ 2年目研修講座「センター研修」（高等学校）・「センター研修Ⅱ」（特別支援学校）以降、各自計画を立て、3年目研修講座「センター研修」までに【様式1】【様式2】を記述することができるように進めることを連絡。

### 3 3年目

2年目の自己研修の振り返りを基に、実践の見直しや新たなテーマへの取組を行います。



### 4 4年目以降

教職経験5年研修及び中堅教諭等資質向上研修でも自己研修の取組を行います。  
研修者は、日常の実践の中で、常に課題意識を持ちながら自己研修を継続します。  
自己研修について、後輩教員への指導も積極的に行います。

## Ⅵ 「自己研修計画書」および「自己研修のまとめ」（様式集）

### 自己研修シート【様式1】

学校名 \_\_\_\_\_ 小学校 \_\_\_\_\_ 学年・内容 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

#### 1 自己研修のテーマ

--

#### 2 テーマ設定の理由

#### 3 手立てと検証の方法

手立て	検証の方法

#### 4 研修のスケジュール

月日	実践の場	実践内容

#### 5 実践結果

手立て	実践結果

## 6 実践の考察

### 7 実践の振り返り（できたことや、改善すべきことを具体的に記述）

#### （1）テーマ設定について

視点の例

- ・自分自身のニーズに合ったテーマ
- ・テーマを実現するための手立て

#### （2）考察について

視点の例

- ・児童生徒の変容の捉え方

## 8 担当者からのコメント

※A4片面2枚以内に収めること

◇参考【様式1】の拠り所となる「教員のための自己研修の進め方ーアクション・リサーチの手法を用いてー」・自己研修のテーマ設定シートの記入例 (pp. 10-11)

自己研修の進め方

## 自己研修のテーマ設定シート **記入例**

■次の4つの項目について考え、書きやすいところから書いてみましょう。

### 【児童生徒の現状】

- ① 指示待ちの児童が多く、積極的な活動が行われない。
- ② ペアやグループでの話し合い活動が活発に行われず、話し合いの前後で変化がない。
- ③ 挙手・発言する児童が固定化している。

### 【目指したい児童生徒の姿】

- ① 自分で考え、進んで活動をする。
- ② ペアやグループでの話し合い活動が活発で、話し合いにより学習や活動が充実する。
- ③ 自分が思っていることや考えていることを誰もが表現できる。

### 【教員（自分）に起因する要素】

- ① 説明や指示が多く、児童に考えさせたり、判断させたりする場面の設定が少ない。
- ② 話し合い活動の具体的な手立てや、児童の考えを広げる発問が不得手である。
- ③ 自分の考えを整理し、自信を持って発言できる児童を育成するための方法がわからない。

### 【教員として高めたい力量】

- ① 児童に考えさせるための発問や授業の展開を考え、実践する力。
- ② 話し合いの目的を明確に示し、必然性のある話し合いを行わせる力。
- ③ 話す内容が整理できる学習シートを開発・改善する力。

■上の4つの項目を参考にして、取り組む「自己研修のテーマ」を書きましょう。

自分の思いや考えを整理し、自分の言葉で伝えられるようにするための学習シートの工夫

※優先順位の高い項目に絞って具体的にテーマ設定をすることが大切です。

◇参考【様式1】の拠り所となる「教員のための自己研修の進め方ーアクション・リサーチの手法を用いてー」・「Planシート」の記入例 (pp.12-13)

自己研修の進め方

## Planシート **記入例**

### ■自己研修のテーマ

自分の思いや考えを整理し、自分の言葉で伝えられるようにするための学習シートの工夫

### ■テーマの明確化

- ・自分の思いや考えを自分の言葉で伝えるために必要なことは、話すことに自信をもたせることだろう。
- ・話す内容を整理したり、順序立てたりしながら、自分の話を相手にわかりやすく伝える経験をさせることで徐々に自信をもつことができるようになるだろう。

### ■情報収集と予備調査

- ・事前アンケートを実施
- ・アンケートの結果から見えたこと
  - (1)話すことに不安感を持っている。
  - (2)何をどう話せばいいのか分からない。
  - (3)考えたことを言葉にすることが苦手。
- ・2つの文献「わかりやすい話し方」、「話すことに自信がもてる授業」を授業の実践計画に役立てる。

### ■方法や手立ての立案

- ・自分の考えを伝えようとする態度を積極的に認める。(内容が途中で)
- ・調査した文献をもとに話型を示したり、話すことを予め書かせたりするための学習シートを準備する。
- ・話すことや話し合いの目的を理解させるために、発問や指示を明確にする

### ■児童生徒のゴール像設定

- ・自分の思いや考えを自分の言葉で話すことができる。
- ・友達の発言を受けて、自分の考えとの相違点に気付いたり、新たな考えを広げたりできる。
- ・今回のゴールは、隣の児童に自分の考えを話せるようになることとする。

### ■計画立案

5月 アンケート(事前)作成  
先輩に見ていただき修正後実施  
アンケート結果分析  
授業計画の作成

6月 授業実践

7月 アンケート(事後)作成と実施  
アンケート分析  
ここまでの報告書を作成

8月 分析結果を基にした授業改善  
校内研での発表

9月 授業計画の作成

10月 授業実践

11月 実践の分析とまとめ

12月 報告書作成と新たなテーマ設定

## Ⅶ 「自己研修計画書」および「自己研修のまとめ」（記入例）

### 【記入例①】

学校名 □□□小学校 学年・内容 5年・算数 氏名 □□ □□

#### 1 自己研修のテーマ

第5学年算数、小数のかけ算における解き方や考え方を伝え合う力を高める指導の在り方

#### 2 テーマ設定の理由

算数の授業を振り返ると、どの子も真剣に問題解決には取り組んでいるものの、正解か、不正解かという視点ばかりにこだわっていたり、早く解くことで満足感を得ていたりして、表面的な理解に留まってしまっている。そこで、今回の研修では、学び合いの場面における表現方法や交流方法についての手立てを組むことで、解き方や考え方を伝え合う力を高める指導の在り方についての研修を深めたいと考えた。

#### 3 手立てと検証の方法

手立て	検証の方法
<b>ア 「算数ボックス」の活用</b> 学習支援ソフト内に、「算数ボックス」というフォルダを作り、その中に数直線図や数量関係図等の説明素材を入れておき、それを使って式の意味を説明できるようにする。	・学習支援ソフト上で児童が作成した自力解決データの分析。
<b>イ 「学び合い」の時間の設定</b> 自力解決の後に、3人組による「学び合い」の時間を設定し、互いの解き方について説明し合う活動を取り入れる。	・アンケート調査を行い、伝え合う活動への情意面での変容で評価する。
<b>ウ 振り返りによる自覚化</b> 振り返りで「伝え合い」についての記述を蓄積し、成長の自覚化を図る。	・振り返りの記述の分析。

#### 4 研修のスケジュール

月日	実践の場	実践内容
4/24 (月)	担当者との相談	「自己研修」計画書の完成
5/8 (月)	担当者との相談	実践の進め方の相談
5/29 (月)～ 6/6 (火)	実践「小数のかけ算」	研究授業を通じた実践 8時間単元
6/23 (金)	担当者との相談	実践の考察
7/4 (火)	担当者との相談	「自己研修」のまとめ

#### 5 実践結果

手立て	実践結果
<b>ア 「算数ボックス」の活用</b>	・ほとんどの児童が数直線図を使って説明しようとしていた。 ・式の意味を、複数の方法で説明していた児童がおり、その良さを他の児童にも広げられた。



<p>ア 「算数ボックス」の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備していた素材を使わずに、自分で書いた図で説明する児童もおり、表現の自由度を高めたことが、上位の児童の学習への有効な手立てとなっていた。</li> <li>・説明用の素材を準備しただけでは、自力で解決までたどり着けない児童がいたので、ヒントの矢印を入れたシートも準備するようにした。この手立てにより、自分で考えられるようになった。</li> </ul>
<p>イ 「学び合いの時間」の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は、解けた児童が、解けなかった児童に教える時間になってしまっていたが、ヒントシートを使って解けるようになると、次第に説明し合う時間になってきた。</li> <li>・3人組にしたことで、必ず説明をしなければならない場面にはなっていたが、形式的に説明する活動になってしまった。</li> </ul>
<p>ウ 振り返りによる自覚化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決や学び合いに時間がかかってしまい、振り返りの時間までは、十分に確保できなかった。アとイの手立てに絞って実践を充実させることとした。</li> </ul>

## 6 実践の考察

### ア 「算数ボックス」の活用について

- ・途中で、児童の姿を見ながら「算数ボックス」に入れる資料を工夫したことで、どの子も自分から学べるようにするための手立てになっていたと考える。
- ・解き方や考え方を説明する力をつけるためには、自分自身で解き方を決めたり、選んだりしたという実感が必要だと感じた。

### イ 「学び合いの時間」の設定について

- ・グループの区切って活動させる場合、3人という人数は、全ての児童が活動する必要が高まり妥当であったと考える。
- ・説明をし合うためには、答えまで求められなかったとしても、途中までは考えられたという実感が必要だと分かった。そのためには、全く解決の見通しが立たない児童に対して、最初の一步を踏み出せるようにする手助けが必要だと感じた。

## 7 実践の振り返り（できたことや、改善すべきことを具体的に記述）

### （1）テーマ設定について

### （2）考察について

2つの観点から、自分自身の取り組みを俯瞰して記述します。

## 8 担当者からのコメント

校内担当者の先生に記入して頂く欄

【記入例②】

学校名 □□□中学校 学年・内容 2年・道徳科 氏名 □□ □□

1 自己研修のテーマ

他者の多様な考え方に気付かせ、多面的・多角的思考を促す道徳科の授業の在り方～発問の工夫とICT活用を通して～

2 テーマ設定の理由

道徳科の授業において、他者の多様な考え方に気付かせ、多面的・多角的思考を身に付けさせたい。そのために、日々の授業では、話し合い活動を意識的に取り入れているが、ワークシート等を見ると、話し合い活動により多様な考え方があることや、自分自身の思考の変容に気付いているとは言い難い現状がある。そこで、手立てを発問の精選やICTの効果的な活用に焦点化し、多面的・多角的思考を促す自己研修に取り組みたい。

3 手立てと検証の方法

手立て	検証の方法
① 主観的、客観的に考える発問の発想 ・登場人物や道徳的価値に自分自身を重ね合わせたり、批判的に考えたりすること	・発問に対する回答記述や発言等から、生徒の思考の広がりを読み取る
② ICTを活用した思考の可視化 ・互いの考えを可視化（ロイロノートカード機能） ・自分の考えの変容過程の可視化（ロイロノート思考ツール）	・ICTを活用して蓄積されたワークシートや振り返りの記述内容から、多面的・多角的思考や思考の変容を読み取る

4 研修のスケジュール

月日	実践の場	実践内容
4月18日（木） ～4月25日（木）	担当者との相談 （2回程度）	研究の方向性の確認と道徳科の授業づくりについて「自己研修シート」1～4の完成
5月15日（水） ～7月10日（水）	授業実践①～③	実践（前半）
7月18日（木）	担当者との相談	授業実践（前半）①～③についての振り返りと、今後の研究の方向性の確認と相談
8月21日（水） ～9月11日（水）	授業実践④⑤	実践（後半）
9月12日（木）	振り返り	授業実践（後半）④、⑤と全体の振り返り、今後の実践や研究の方向性の確認と相談 「自己研修シート」5～7の完成

5 実践結果

手立て	実践結果
① 発問	・対象に対してどのような距離感で考えるか、発問の立ち位置を変えることによって、生徒の中から多様な考えが生み出されていた。
② ICT活用	・タブレットに映し出された多様な他者の考えを、興味関心を持って見つめていた。 ・他者の多様な考えに触れることにより、自分の考えが変化していく様子が生徒の思考ツールの中に書き出されていた。

## 6 実践の考察

### ①主観的、客観的に考える発問の工夫について

- ・生徒自身が登場人物になって考えたり、一歩ひいて客観的に登場人物を見つめたりする発問を意識的にしたことで、より多様な考えを引き出すことができた。その視点は、教材によっては、主人公を軸にその心情変化を追うことがよいと思われるものや、扱う内容によって、そうではない場合もあると思うので、内容に合わせて発問を吟味する必要がある。

### ②ICTを活用した思考の可視化について

- ・生徒は、話し合い活動時よりも真剣な表情で、ロイロノートの画面を見つめていたことから、他者の多面的・多角的な思考に触れることができるという点で、ICT活用は効果的であると感じた。多面的・多角的な思考をさらに促すためには、自分自身が他者の考えについて、どのように思ったかなど、問いを重ねていくことが大事なのではないかと思った。

## 7 実践の振り返り（できたことや、改善すべきことを具体的に記述）

### （1）テーマ設定について

### （2）考察について

2つの観点から、自分自身の取り組みを俯瞰して記述します。

## 8 担当者からのコメント

校内担当者の先生に記入して頂く欄

【記入例③】

学校名 □□□□高等学校 学年・内容 1年・歴史総合 氏名 □□ □□

1 自己研修のテーマ

自らの問いを周囲と協働しながら追究する力を高める教科指導の改善

2 テーマ設定の理由

歴史総合は現代に見られる諸課題を近現代の歴史とのつながりから考察し探究する科目である。しかし、自分がこれまで行っていた、個別の歴史的事象を教え覚えさせていく指導では生徒に歴史科目は暗記であるという誤った認識を抱かせ、現代とこれまでの歴史は別なものであると捉えている状態であると気付いた。そこで、単元を見通した学習計画の下、現代にみられる諸問題を示す諸資料から生徒自身が抱いた疑問を解決していく学習の過程で周囲との考え方や見方の違いから自分の考えを深め、表現できる力を高めていくことで科目の目的により近づけると考えたため。

3 手立てと検証の方法

手立て	検証の方法
<b>ア 個別の「問い」を解決する見通しを立てる時間の設定</b> ワークシートへの入力の際に生徒が自らの問いを解決するために、どんな事柄が必要かを認識することで科目を学習する必要性を自覚できるようにする。	・生徒が入力する時期の文字色を変えることで、思考の変化の変遷を読み取る。
<b>イ レディネステストの実施と学習計画の提示</b> 教員から単元内の学習計画で行う活動を提示することにより、生徒自身が何を重点的に学ぶかを考え入力する。	・単元のまとめで行う振り返りで、テストと学習計画の提示がどれだけ役立ったかを回答してもらう。
<b>ウ 考えを伝えあい、深める時間の設定</b> デジタルホワイトボードを活用し、それぞれの考えを表示し、議論することで自らの考えを深める。	・授業の終末部分で記入するポートフォリオでのまとめの記述状況から読み取る。

4 研修のスケジュール

月日	実践の場	実践内容
4月中旬	担当者との打合せ	研修の方向性の検討と修正
4月最終週～ 5月第1週	授業実践①～②	第2章近代化と私たち 1節近代化への問い (手立て①)
5月第2週	授業実践③	2節結び付く世界と日本の開国 (手立て②)
5月第2週～ 最終週	授業実践④～⑨	2節結び付く世界と日本の開国 (手立て③)
6月第1週	授業実践⑩	小単元のまとめ (個別の「問い」への結論の入力)

## 5 実践結果

手立て	実践結果
ア 個別の「問い」を解決する見通しを立てる時間の設定	・「問い」の段階が単純なものから複雑なものとの幅があったが、学習を進めていく中で、必要な事柄に気付く入力が多く見られた。
イ レディネステストの実施と学習計画の提示	・レディネステストを行ったのちに学習計画の提示を行ったことにより、自分に不足している情報が何かに気付き、それぞれの時間の目標を記入する上で教科書をよく読む傾向が見られた。
ウ 考えを伝えあい、深める時間の設定	・考えを伝え合う機会が増え、多面的、多角的な視点で書かれた記述が一部見られた。

## 6 実践の考察

- ア 個別の「問い」を解決する見通しを立てる時間の設定
- ・個別の「問い」を単元の学習の中で意識できたことにより、より自分に関連した事柄として学習に対して積極的になる効果があったと考えられる。
- イ レディネステストの実施と学習計画の提示
- ・中学校歴史分野での振り返り、必要な情報を習得する時間がどこなのかをそれぞれで考えたことで、学級全体の授業への集中度をあげる効果があったと考えられる。
- ウ 考えを伝えあい、深める時間の設定
- ・自らの考えを客観的に捉える機会となったことに効果はあったが、授業それぞれの時間内でしっかり個人の考えをまとめる機会を設けることが難しかった。そのため、深めることが不十分に終わった生徒も一定数いたので、単元の指導計画・内容の一層の精選が必要と感じた。

## 7 実践の振り返り（できたことや、改善すべきことを具体的に記述）

### （1）テーマ設定について

### （2）考察について

2つの観点から、自分自身の取り組みを俯瞰して記述します。

## 8 担当者からのコメント

校内担当者の先生に記入して頂く欄

【記入例④】

学校名 □□□支援学校 学年・内容 5年・国語 氏名 □□ □□

1 自己研修のテーマ

知的障がい学級の実態差に応じた国語科の授業の工夫  
 - 個別学習と一斉学習の工夫を通して -

2 テーマ設定の理由

知的障がいのある児童の教科学習においては、個別での学習形態が中心になりがちである。これは、児童個々の実態に応じて学習を進めることができるという利点がある一方で、集団としての学び合いの機会が減少するという欠点がある。「協働的な学び」の観点からも、小人数でも一斉授業の形態で学びあう意義は少なくない。そこで、児童個々の実態差を踏まえつつ、児童同士の学び合いが生まれるように授業を工夫することを通して、知的障がい学級の実態差に応じた国語科の授業について考えたい。

3 手立てと検証の方法

手立て	検証の方法
ア 授業の構造化 個別学習の時間と一斉学習の時間を明確に分けて設定する。	授業での観察
イ 児童の実態に応じた個別学習課題の設定 できるだけ一人で取り組むことのできる課題を用意する。	授業での観察、単元における個別の指導計画の評価
ウ 一斉学習の工夫 児童の実態に応じて活動を設定し、それらを組み合わせで解決できる共通の課題を設定する。	授業での観察、授業づくりシート(単元計画シート)の記述

4 研修のスケジュール

月日	実践の場	実践内容
5月9日	担当者との相談	自己研修計画書について
5月13日	〃	学習指導案の相談
5月16日～27日	実践①(国語の1単元)	6単位時間の実践
5月30日	担当者との相談	実践①の考察、取り組みの修正
6月3日	〃	学習指導案の相談
6月6日～17日	実践②(国語の1単元)	6単位時間の実践
6月24日	担当者との相談	実践②の考察、実践まとめ
6月28日	〃	自己研修のまとめ

5 実践結果

手立て	実践結果
ア 授業の構造化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に関わらず授業の流れを一定にしたことで、児童が見通しや期待感をもって授業に参加する様子が見られた。</li> <li>・授業の開始を個別学習にしたことで、準備が整った児童が他の児童を待たずに、順次課題を進めていた。</li> </ul>
イ 児童の実態に応じた個別学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は自分一人のできる課題であることがわかると、それぞれが時間いっぱい学習に取り組んでいた。</li> <li>・課題の最後を児童が楽しみにしている iPad での学習をにしたことで、児童はそれを目標にプリントに積極的に取り組んでいた。</li> <li>・一人の児童に係る教師の支援時間や添削時間を短縮することができた。</li> </ul>

ウ 一斉学習の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて活動を設定し、それらを組み合わせで解決できる共通の課題を用意したことで、教科の学習状況に差がある児童でも全員で同じ教材を使って授業をすることができた。</li> <li>・黒板やパワーポイントなど、注目すべき場所が統一されたことで共同注意を促すことができた。</li> <li>・発問に対する友達の発表を見たり聞いたりすることで、児童は友達を模倣したり、自分の答えに対するヒントを得たりする様子が見られた。</li> </ul>
-----------	---

## 6 実践の考察

### ア 授業の構造化

支援を必要とする児童が混乱することなく授業に取りかかることができるようにするためには、教師が見通しを示すことが重要であり、今回は授業の内容にかかわらず同じ流れにしたことで、児童がスムーズに授業に参加できる体制が整ったものとする。

### イ 児童の実態に応じた個別学習課題の設定

始めは、教師が側にいないと一人でできると思われる課題であっても取り組もうとしない児童もいたが、他の児童が一人でプリント学習している様子や教師からの言葉がけを受けて時間いっぱい個別学習に取り組むことができるようになっていった。児童一人一人の実態に応じて適切な課題設定ができたことや教師からの称賛により自信を持つことができたことにより、意欲を引き出すことにつながったと考える。

### ウ 一斉学習の工夫

他者を意識することが「協働的な学び」の一步であると考え、児童の実態に応じて個別の活動を設定した上で、それらを組み合わせで解決できる共通の課題を設定した。児童は友達の発表を見たり聞いたりする中で、友達を模倣したり、自分の答えに対するヒントを得たりしている様子が見られ、児童同士の学び合いの効果が感じられた。また年間を通して、授業の最後にカルタを行っている。友達と競うことで意欲や集中力がアップしたり、友達を意識することで読み手が大きな声ではっきり平仮名を読んだりすることができるようになってきたことから、授業者が児童をつないでいくという意識をもっていることが大切だと感じた。

## 7 実践の振り返り（できたことや、改善すべきことを具体的に記述）

### （1）テーマ設定について

### （2）考察について

2つの観点から、自分自身の取り組みを俯瞰して記述します。

## 8 担当者からのコメント

校内担当者の先生に記入して頂く欄

初任者・2年目・3年目  
研修における  
自己研修の進め方  
～年間の取組と集合研修に向けて～

令和6年4月

発行 岩手県立総合教育センター  
花巻市北湯口2-82-1  
〒025-0395 TEL 0198-27-2711  
発行者 岩手県立総合教育センター  
研修推進委員会